

お蔭さまでUTOはこの夏で25周年を迎えます。
今まで支えてくださったすべての皆様に感謝を申し上げます。

創業の1992年は、バブルが崩壊して2年目。云い分ぎみですが、日本経済が完全に後退する時。そんな時にbhfインターナショナルという名前で作業した自分の先見の無さを痛感します。長いような短いような無我夢中の25年でした。今まで存続していること自体が不思議といえる四半世紀だった気がします。次の50年に向けて頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。



【ふるさと納税・2年連続2億円突破】

2016・17年度のふるさと納税で、全国の皆様からUTOのカシヤを返礼品としての寄付を頂きました。お蔭さまで、今年も2億円を超えることが出来ました。私たちは大喜びですが、北上市からも感謝されて嬉しさ倍増です。

今年度もふるさと納税はもう始まっています。4年目に入りましたので、新しい色をはじめ、魅力的な返礼品をどんどん開発しますので、どうぞよろしくお願ひします。

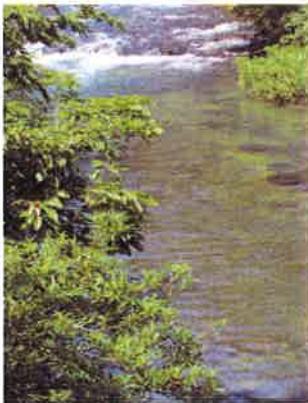


【UTO Kitakami 寄附は40万円】

東日本大震災で苦しむ東北。UTO Kitakami やカシヤの菜が一枚売れることに100円の募金をしようとした。その募金が昨年度も40万円が集まり、4月末、北上市役所を訪問し高橋市長へお渡ししました。

2012年からの合計が1,230,200円になりました。時間と共に記憶も薄らいでしましますが、UTOはUTO Kitakami が続く限り続けます。

お買い上げ頂きました皆様、本当に有難うございます。今度とせよどうぞよろしくお願ひします。



【前を見て進もう】

一九九二年に、「青山骨董通りで創業しました。いろんなとがありまして。だからこそ、25周年のいま、僕の好きな言葉をもう一度頭に刻みます。

『前に進むんだから前を見よう。希望を持って未来の話をしよう』

『苦しかったこと、出来なかったことを反省するのはとても大事だ』

『バックミラーを見るのは時々にして』

『バックミラーに映る過去はほとんど小さくなっていくんだ』

『後ろばかり見てたらかえって危ないよ』

『だから、前を見て進もう』

【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

青山のお屋事情

将来はレストランのオーナー？

UTOはここ青山骨董通りで創業して25年になります。表参道界隈は、交通の便も良く落ち着いたおしゃやな街の感覚が気に入っています。一つだけ不便に感じていることがあります。それがお屋事情です。

他所から青山・表参道界隈に遊びに来てゆっくりお屋を楽しみむには、お洒落で雰囲気の良いお店はたくさんあります。特に女性に人気の新鮮野菜のサラダをはじめとする健康的なお店や、イタリアン等々。

値段が問題です。大体千円から千五百円当たりです。もちろんそのメニュー自体の値段が高いと安いとかということではないのですが、住人や勤め人にとって毎日のお昼代が千円を下らないというのはちょっと大変です。フンコインランマンの話がよく聞きます。下町や新橋等のサラリーマンが多い処はもちろん、銀座や日本橋辺りでもメインの通りを二つぐらい入るとけっこう安く食べることが出来ます。

お屋ですから、そんなに遠くまで行くわけにはいきません。私の知っている範囲ですが、お隣のニッカビルの地下にあるウスケボーが日替わりランチを出していて七百八十円。これがこちら辺で



一番安いランチでしょう。他に千円でお釣りが来る場所はほとんどありません。だから昼時はコンビニが大賑わいなんです。

そんな事情を反映してか、ここ数年ランチを提供するお弁当の屋台車が増えました。何年か前に骨董通りでも何店(車)が出たことありますが、警察に排除されていました。たぶと本店に営業妨害を通報されて排除されたんだろうと噂していました。

メイン通りを少し入ったところに出店しています。頑張っている若者の心意気に土地の所有者が許可してはいるんでしようね。いわゆる幕の内のような普通のお弁当ではなく、タイ風とかインドネシア風のエキゾチック料理等の特徴的なメニューが多いようです。狭い車の中で調理したりして暖かい料理を提供しています。頑張っているな!と思います。

お得意さんに定着しているように明るい会話も聞かれ、陽気の良い日はかなりの行列になっています。お店もあります。反面、お天気の悪い日は大変だと思えます。

カシヤ100% 四つ季 クルーネックセーター

1217-1219 ¥77,760 税込

最高級カシヤ原料を使い、異なる色の糸を4本も撚り合せて作った糸で編み上げました。微妙な色合いのセーターは、まるで印象派の画家、スラーの絵のようです。もちろん肌触りは抜群です。5色展開 男女兼用。



カシヤ100% 天使のストール創立25周年バージョン

1112-1113 ¥21,600 税込

一番人気の天使のストールレギュラー版を、UTO創立25周年を記念バージョンです。一方の端に4色の色を配した美しいストールです。首に巻いた片方に可愛い色が覗きます。4色展開



カシヤ100% ロングカーデガン

1112-2291 ¥78,840 税込

最高級の糸を2本取りにして贅沢な7ゲージに編み上げました。たっぷりなボディでゆったりと羽織ることが出来るので、着ている感を感じさせない柔らかなさです。



カシミアとニットの話 * (五十七)

UTOのカシミアニットは、自分で洗ってあげてください

寒い冬に活躍してくれたカシミアを、自分で洗って仕舞ってあげてください。

もし、次の方法でUTOのカシミアが縮んでしまったら、新しい商品にお作り直させて頂きます。勇気を出して洗ってください。

① 洗いや

* 手洗いの押し洗いか、洗濯機の手洗いモードで、洗面器に水を張って押し洗うのも良いですが、洗濯機(斜めドラムは絶対に駄目です!)の手洗いモードでも大丈夫です。

② 洗剤

* 普通の洗剤と柔軟剤が、自分のシャンプーとリンス* カシミアの毛も、髪も基本は同じたんぱく質です

③ 水

* 水道水がお勧めで、ぬるま湯はお勧めしません * 洗剤が溶ければ少々冷たい水でも構いません

④ 洗う枚数

* 一回に1〜2枚をネットに入れて * たつぷりの水に、泳がせるように洗ってください。

⑤ 脱水

* 脱水機で十分水気を取る * 遠心分離機のように水を飛ばすので優しい脱水の方法です。

⑥ 乾かし

* 平干し * 自然乾燥が一番優しい方法です。乾燥機は縮みます!絶対に使用しないでください! 干す前に形を元に整えてください。



水道の水でぬるま湯の必要はありません



手洗いはよく泡立て



普通の洗剤と柔軟剤でOK!ご自分のシャンプーとリンスがお勧め

洗濯機の場合はネットに入れて、1〜2枚で



洗濯機の手洗いモードでOKです!



形を整えて



平干しがお勧め



脱水機で完全に脱水してください

東京とは、旅に出ることだった



高校生の時に旅に目覚めました。2年生の時、未知の世界を見てみたいと、九州を一周する旅を企画しました。遠くへ行きたいという思いが強かったのになぜ九州一周だったのか覚えていませんが、そのころは九州の外は異郷の地だったでしょう。
1960年代の田舎の高校性に、列車に乗れるお金は無く、友人を誘って一番安上りの自転車で九日間九州を一周しました。翌年も九州を一周して巡りました。

以来旅に乗り、世の旅行好きにもれず交通公社の時刻表が愛読書でした。高校の図書館で処分する時刻表をもらってボロボロになるまで読んでいました。読書が時刻表なんていうと、ひどく変り者だという印象が有りますが、自分ではそんな意識は全くありません。鉄ちゃんの走りだったかもしれません。

当時、東京まではいろんな特急や急行が運行していましたが、寝台特急の「さくら」や急行の「雲仙」などは、長崎を出た列車が、島原鉄道から国鉄の乗り継ぎ駅の諫早に着くのが何時で、東京に着くのが何時と語っていた憧れの列車でしたが、九州の田舎者にとつての東京は、今の感覚ではフランスのバリより遥か存在でした。

高校を卒業して東京に出てくるときは、九州から外の日本の旅に出るという感覚で、旅費としてもらった東京までの運賃でどんな旅が出来るかということしか考えていなくて、故郷を離れるという悲しさは全くありませんでした。ましてや、憧れと言えど、寝台特急に乗って一足飛びに東京に行くなんてもつたいなくて、好きな時刻表をめぐって何度も何度も旅程を作りました。上京することは本番の各駅停車の旅でした。

田舎の島原を出て、自転車旅でお世話になった福岡県高のルノールユースホステルに泊まった後、自転車では行けなかった松浦線に乗り、平戸を訪れて、唐津の虹の松原ユースに泊。その後は何処で降りるか散々迷ったあげく、倉敷の大原美術館を見学しました。エルグレゴに感動しヨーロッパの一端に触れたことで、新しい世界に入った気がしました。

修学旅行以来の京都は宇野野ユースに滞在し3日間京都を巡り、最後は平塚の湘南ユースに泊まりました。多分そのころ憧れていた加山雄三の影響だと思いますが、結局、田舎を出て一週間後に辿り着きましたが、アツという間でした。

特急、急行にも乗らない各駅停車で、めいっはいの切符の有効期間とユースに泊まる旅で上京しました。あの頃有ったのは、若さという体力と無謀だけでした。

世界のホテルを旅する(五十七)

元 旅行屋のお勧め オルレア・フランス

ホテル オルレアン

フランスのロアールのシャトー巡りはフランスの旅の魅力のひとつでしょう。
一通りのお城を巡るならばバリからスタートするより、ここオルレアンからのほうが断然便利です。

オルレアンは、イギリスとの百年戦争の時にジャンヌダルクによって解放された街と言わなければならない知識のない私でしたが、ずっしりと落ち着いた素敵な街でした。
ロアール川の近くには建つホテルオルレアンからの気持ちの良い夕暮れの散歩は、忘れがたい思い出です。

バスで一日ロアールのほとりを巡り、幾つもの城を巡っていると私のようなフランスの歴史に詳しくない者には正直、どのお城がどんな姿で、どんな歴史や物語だったか分からなくなってしまう。

シュノンソー城は、ロアール川の支流のシエール川の上に川をまたぐように建てられた優雅な城です。

当時はイタリアの方がフランスより先進国で、フィレンツェのメデイチ家から来た王妃がイタリアの文化を取り入れて、料理やナイフフォーク等の食文化がフランスにもたらされたそうです。

この城の王妃、奥方、妾等々、複雑な6人の女性たちの繰り広げる物語を聴いていたら、なにがなんだかともわからず、この城は日本だったら台風の時に絶対に流されるだろうと、場違いなことしか頭に残っていません。

アンボアーズ城で記憶に残っているのが、近くのサンチュベール礼拝堂にレオナルドダビンチが眠っていることです。この城のすぐ近くのクロ・リュッセに、1516年から1999年に没するまでフランソワ一世の招きで滞在したと言う事でした。

フランスのこんなところでのオルレアンの天才、レオナルドダビンチの名前を聞くとは想像もしていませんでしたが、あの名画「モナリザ」が、イタリアではなくフランスのルーブル美術館にあることの疑問が解決した貴重な情報でした。



古城めぐりのハイライトはなんと言ってもシャンポール城でしょう。

無敵といえる塔が美しくエレガントなお城ですが、これは煙突と聞いて、その時はちょっと興ざめしましたが、やっぱりフランスを代表する美しいお城だと思います。

ロアールの古城めぐりはとてもエレガントでワクワクするツアーですが、いろいろなお城があり過ぎて、半日もすると、その違いが解らなくなってしまいます。訪れるお城を絞って、じっくり訪問するのをお勧めします。